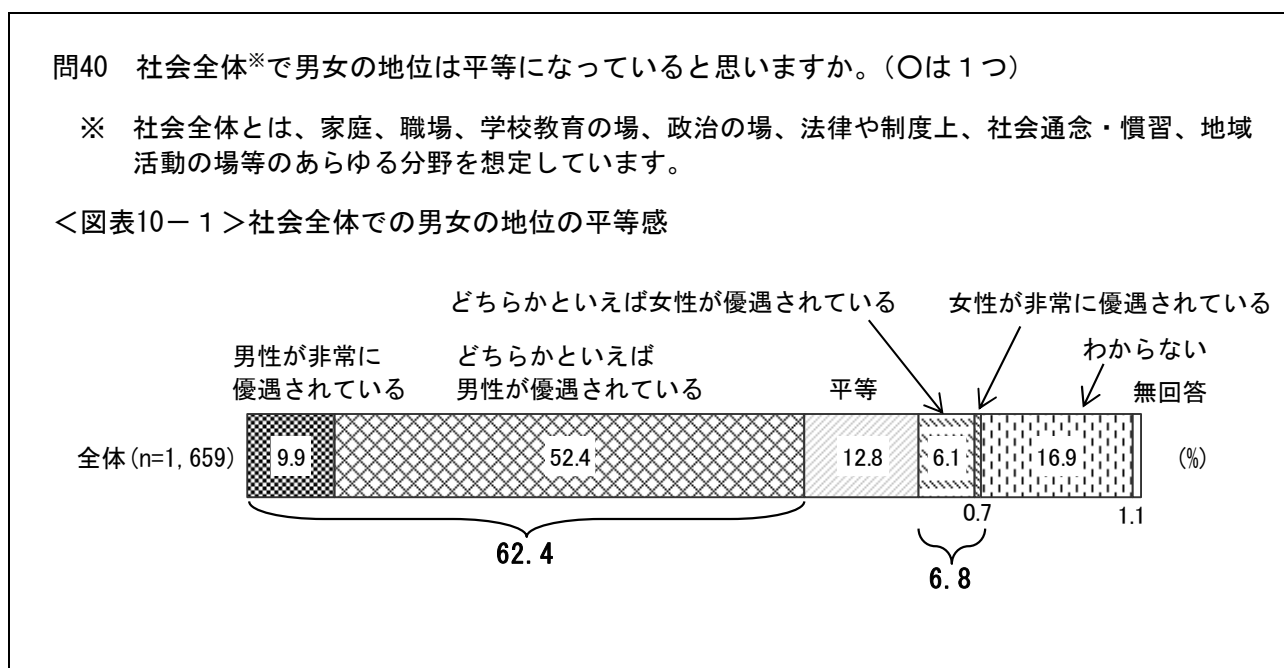


10 男女共同参画について

（1）社会全体での男女の地位の平等感

◇『男性が優遇されている（計）』が6割を超える



社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(9.9%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(52.4%)を合わせた『男性が優遇されている（計）』(62.4%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(6.1%)と「女性が非常に優遇されている」(0.7%)を合わせた『女性が優遇されている（計）』(6.8%)は1割未満となっている。

「平等」(12.8%)は1割を超えている。(図表10-1)

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられなかった。(図表10-2)

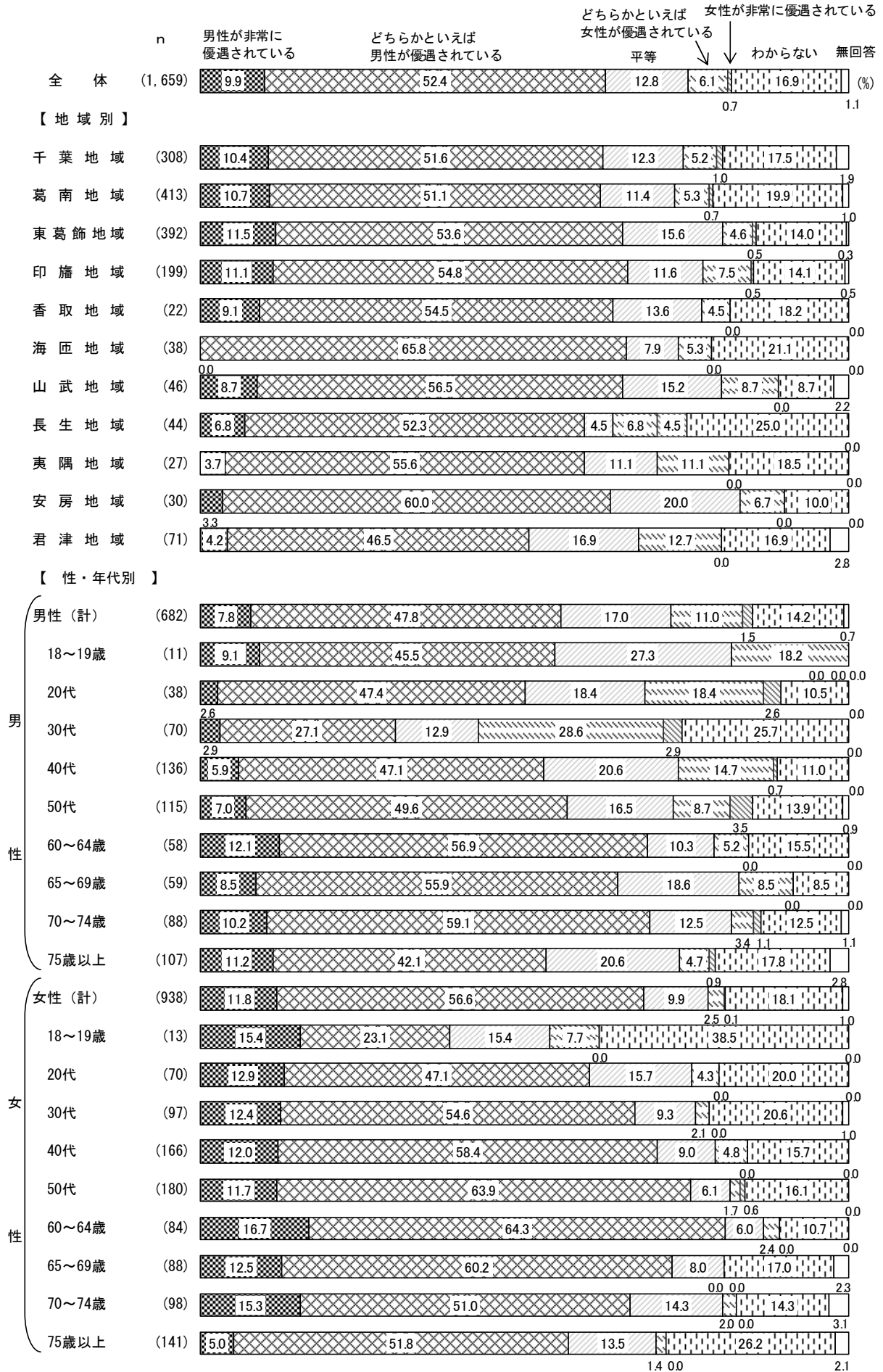
【性・年代別】

性・年代別にみると、『男性が優遇されている（計）』は女性でその割合が高い傾向にあり、その中でも、女性の60～64歳(81.0%)が8割を超え、女性の50代(75.6%)が7割台半ば、女性の65～69歳(72.7%)が7割を超え、女性の40代(70.5%)が7割で高くなっている。

一方、『女性が優遇されている（計）』は男性の30代(31.4%)が3割を超え、男性の20代(21.1%)が2割を超えて高くなっている。

「平等」は男性の40代と75歳以上(20.6%)が2割で高くなっている。(図表10-2)

＜図表 10-2＞社会全体での男女の地位の平等感／地域別、性・年代別

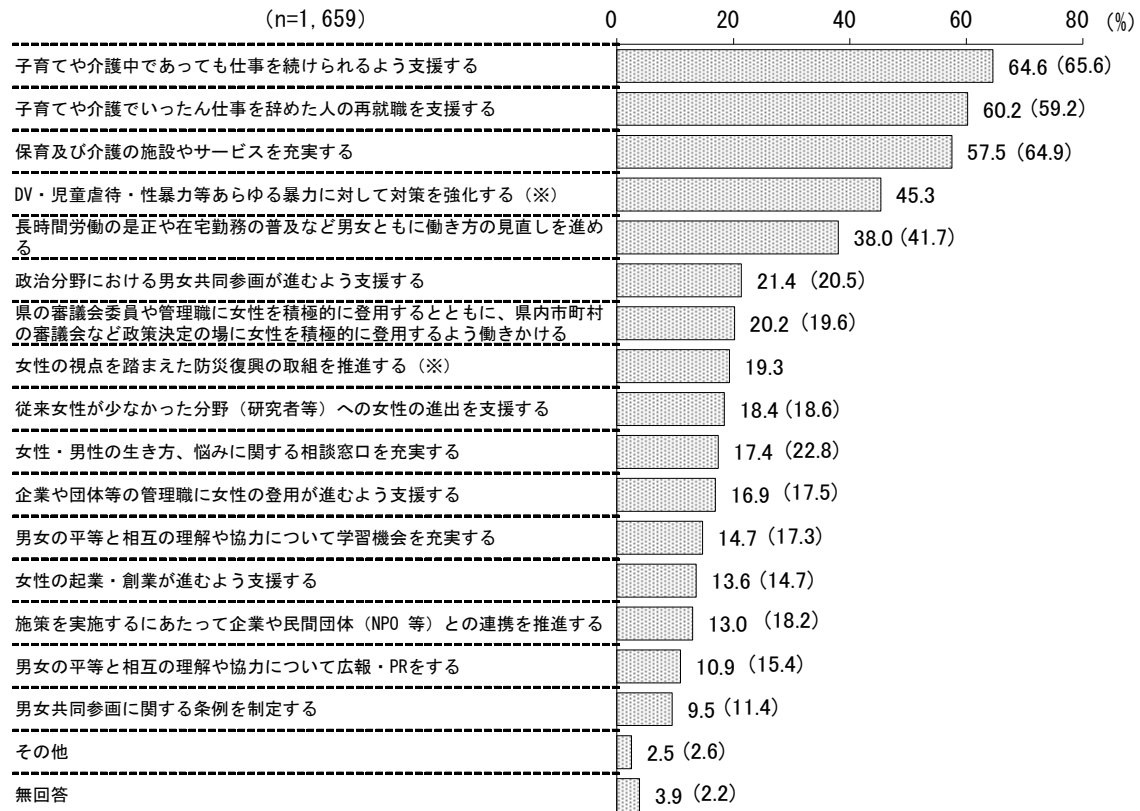


（2）男女共同参画社会を実現するための取組

◇「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が6割台半ば

問41 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（〇はいくつでも）

<図表10-3> 男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）



注) () の数字は令和2年度の同様の項目による調査結果 n=1,568

（※）今回調査からの新規項目

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」（64.6%）が6割台半ばで最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（60.2%）、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」（57.5%）が続く。（図表10-3）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表10-4）

【性・年代別】

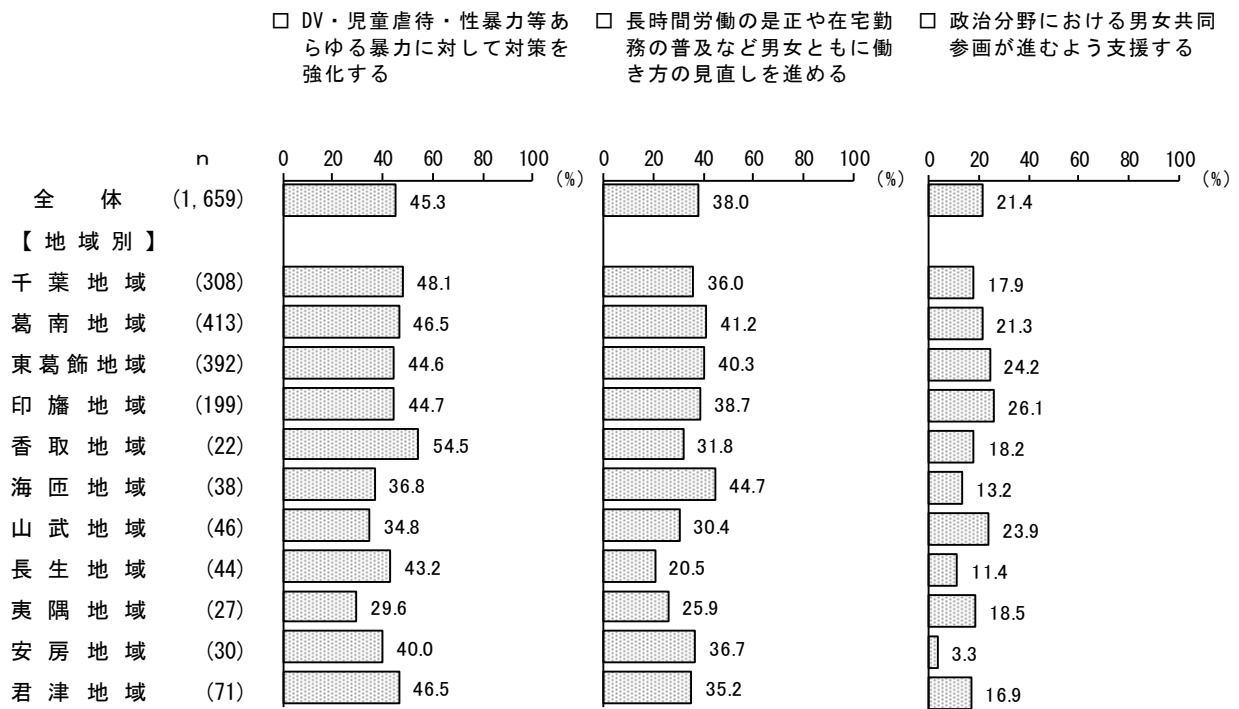
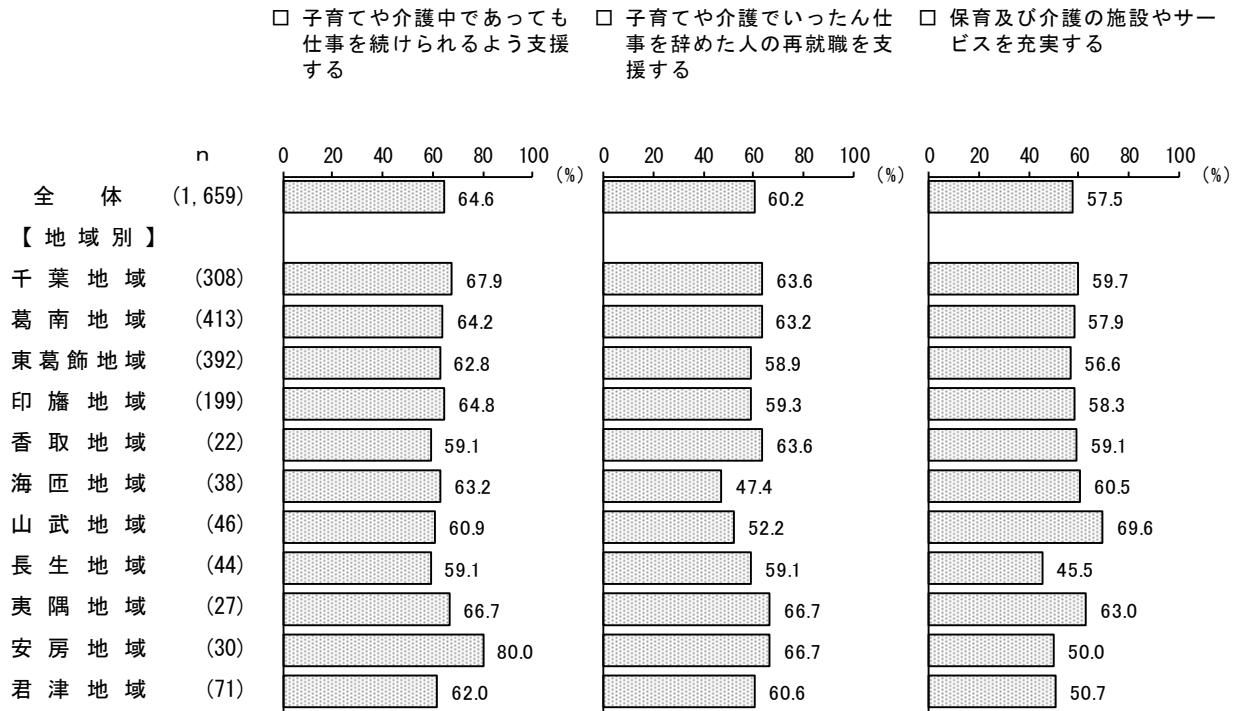
性・年代別にみると、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」は女性の65～69歳（70.5%）が7割で高くなっている。

「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は女性の20代（72.9%）が7割を超えて高くなっている。

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の65～69歳（73.9%）が7割台半ば、女性の60～64歳（69.0%）が約7割で高くなっている。

「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の30代（52.6%）が5割を超え、20代（50.0%）が5割で高くなっている。（図表10-4）

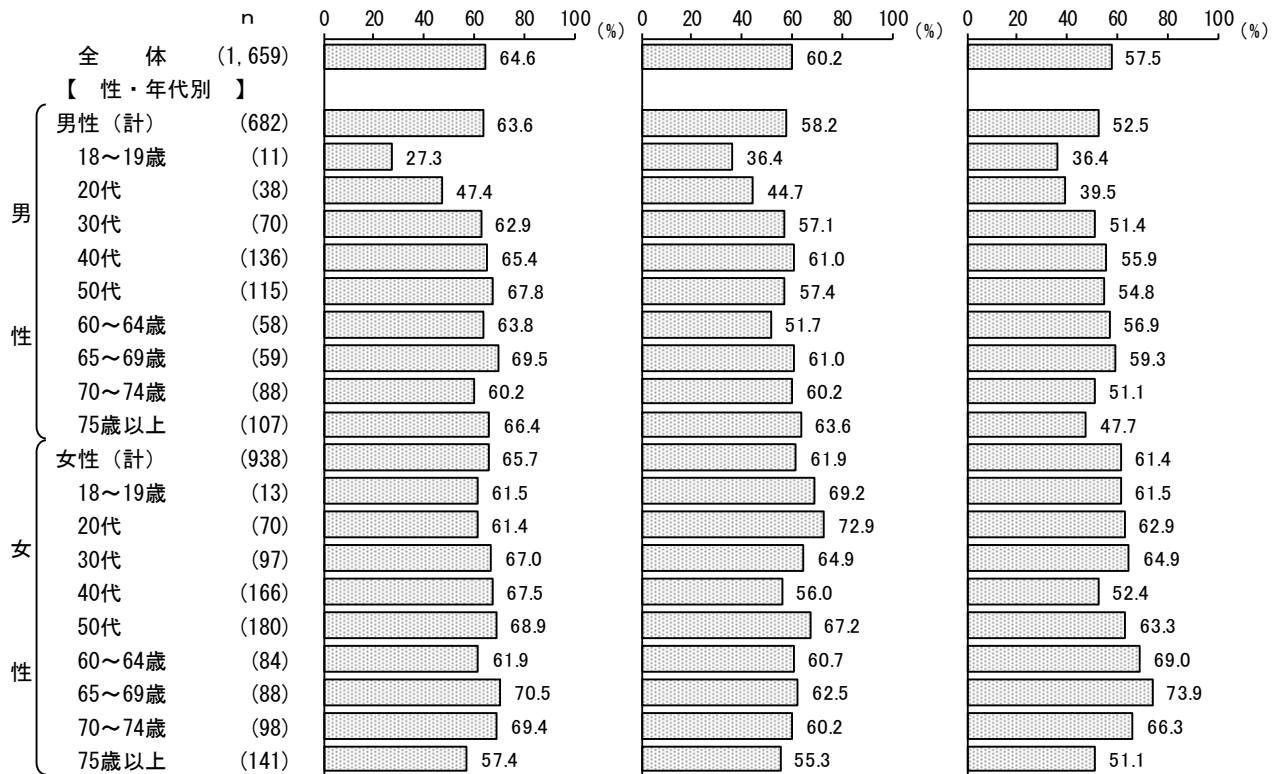
<図表10-4>男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



□ 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する

□ 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する

□ 保育及び介護の施設やサービスを充実する



□ DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する

□ 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める

□ 政治分野における男女共同参画が進むよう支援する

